

ソフトウェア品質保証 責任者の会

第2期 第6回会合次第

2014年3月29日(土) 13:00～17:00

ソフトウェア品質保証責任者の会準備委員会

本日の内容

- 13:00～13:10 オリエンテーション
日科技連からのお知らせ
- 13:10～14:30 講演(60分) + 質疑応答(20分)
「VSE (ISO29110)
小規模開発組織向け開発プロセス」
講師：伏見諭氏（ソフデラ）
- 14:30～14:45 休憩
- 14:45～16:45 グループディスカッション
チームA “人財育成”
チームB “身の丈に合った開発プロセス”
※途中からの参画でも気兼ねなくご参加ください。
- 16:45～17:00 グループディスカッション報告
*終了後に懇親会（自由参加）を実施します。

講演：開発プロセス

- テーマ：VSE（ISO29110）
小規模開発組織向け開発プロセス
- 講 師：伏見諭氏（ソフデラ 代表社員）

SofDeLa
ディベロパメント
ソフトウェア信頼性ラボ

English

当社業務の基本：ソフトウェア、ITシステム開発における広義の信頼性（セキュリティを含むディペンダビリティ）の向上のため、プロセス改善／有効性高度化のアプローチに基づくコンサルティングと調査業務、開発・教育支援業務を行っています。また、実際のソフトウェア＋システム開発も行います。

★【あなたのシステムのソフトウェアは信頼できますか】
★【ソフトウェア開発技術力の向上をどう実現するか】
★【高度技術系ソフトウェアへの取り組み例紹介】

ソフトウェア品質説明
◆IPA/SEC発のソフトウェア品質説明力強化策普及への対応企業のためのコンサルティング
「品質説明」の説明

プロセス改善支援
◆ユーザグループと連携し、スピナッヂキューブ（SPINA³CH）自律改善メソッドを普及・推進しています

VSE規格対応・導入支援
◆JIS化された小規模開発組織向けプロセス標準の導入・対応支援を行っています

総合セキュリティ/ディペンダビリティ・ソリューションを提供します
(動的リスク評価ベースのセキュリティ対策)
状況に合わせて、対処すべきリスクの評価と、セキュリティ情報の収集に基づくセキュリティ対策の考え方を推進しています。

企業向けWebroot製品の取扱いを始めました ISMS 2013年版の解説を掲載しました

業務メニュー

» 小規模ソフト開発業務高度化コンサルティング

» 技術系ソフトウェア+システム開発



合同会社ソフデラ 代表社員

技術系を中心とするソフトウェア小規模開発、中規模開発、大規模開発等に長年従事してきた。また、開発プロセスに関する調査、コンサルティングを行ってきた。最近はソフトウェアの信頼性に関する調査に重点を置いている。スピナッヂキューブの開発にも参加。

- 情報規格調査会SC7/WG24主査
- JISA技術強化委員会標準化部会部会長
- IPA SEC 連携委員

例会報告

■ 第2期活動

- 活動テーマ検討
 - テーマの分類とグルーピング
 - テーマ案化
- 活動テーマ紹介と検討
- チーム分け
 - 活動したいテーマ毎に分かれて活動
- テーマの詳細化
 - ブレインストーミングによるキーワード抽出
 - キーワードのグルーピングと“つながり”的確認
- 希望講師検討
 - 活動に必要な情報入手に適切な方を選定

活動中

準備委員会
が事前準備

チーム活動

例会報告

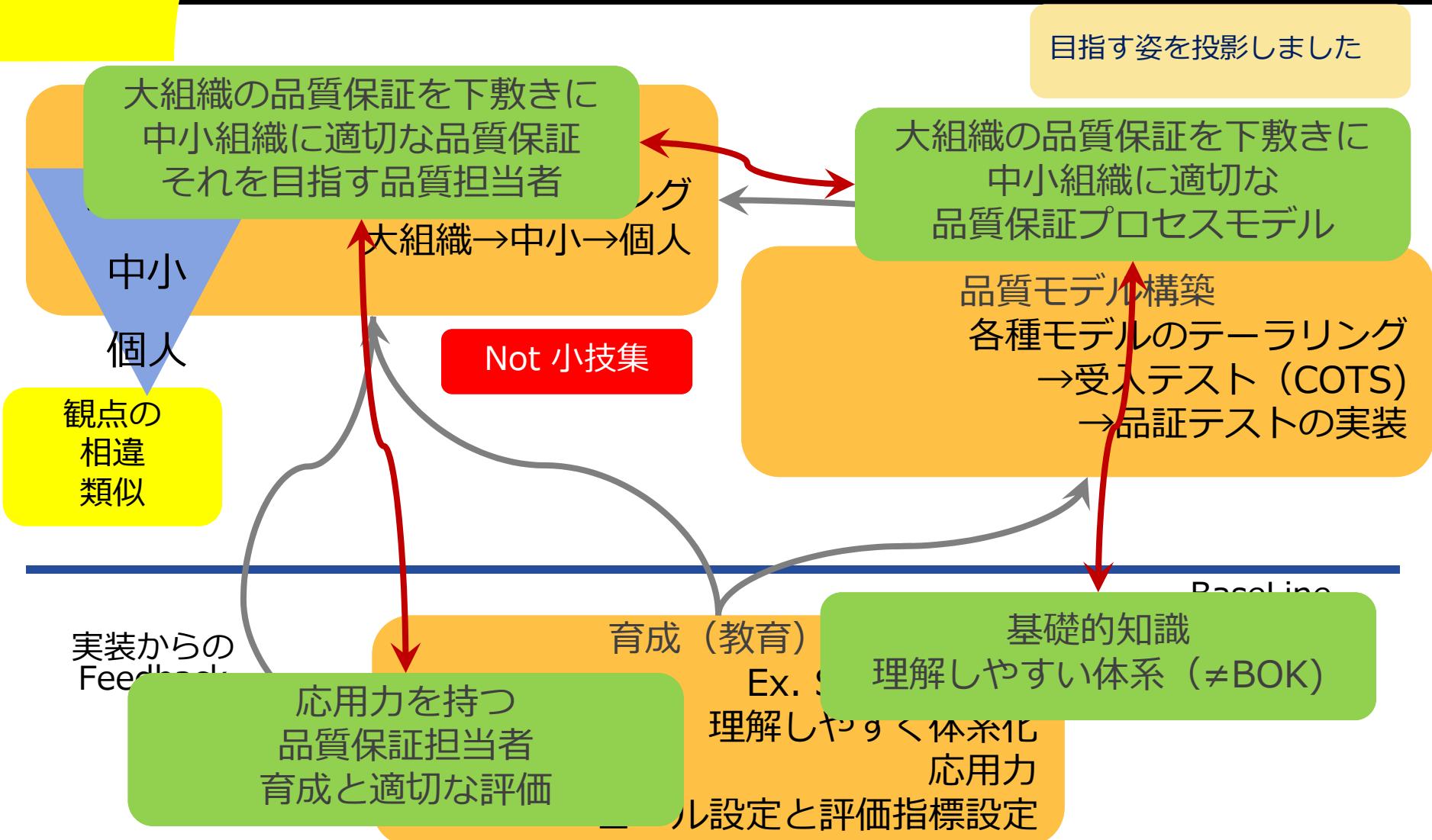
テーマ分類

いただいたテーマ案を
含まれるキーワードな
どで分類しました。

テーマ案	分類 1	分類 2	分類 3
各社の品質保証部門の抱える課題共有や事例紹介をし、その内容を討論する。	大方針		
ソフトウェア品質保証担当者の育成とSQuBOKの活用	育成	学習	
技術的側面－品質保証の勉強を1から始める－	育成	学習	
どのような組織（プロジェクト）では、どのような品質保証・品質管理をすべきか。	研究・調査	プロセス	テーラリング
さまざまなプロセスモデルに対するソフトウェア品質保証	研究・調査	プロセス	テーラリング
そもそもプロセスはソフトウェア品質に貢献しているのか？	研究・調査	プロセス	
ソフトウェア固有の品質保証法とは？ ハードウェアの“ばらつき制御”と異なるアプローチ	研究・調査	プロセス	
ソフトウェアの最適な品質テストの仕方（仮）	実務品証部門 とテスト部門 (組織論)	品証観点テス ト技術	テストプロセ スによる品質 保証
デザインレビューの効率的なやり方 フロントローディングの割に手法が確立していない	実務	レビュー技術	
調達品（OTS/受託）に対するソフトウェア品質保証	実務	プロセス	受入テスト
品質管理部門を持たない中小企業でも明日から出来る品質への取り組み	実務	プロセス	テーラリング の一形態
一個人でも出来る品質を向上させる方法	実務	プロセス	テーラリング の一形態
ソフトウェアのプロジェクト計画とは？ 「組織的な改善の視点」のもの	研究・調査	プロジェクト	
火を吹いているプロジェクトの火消事例	実務		

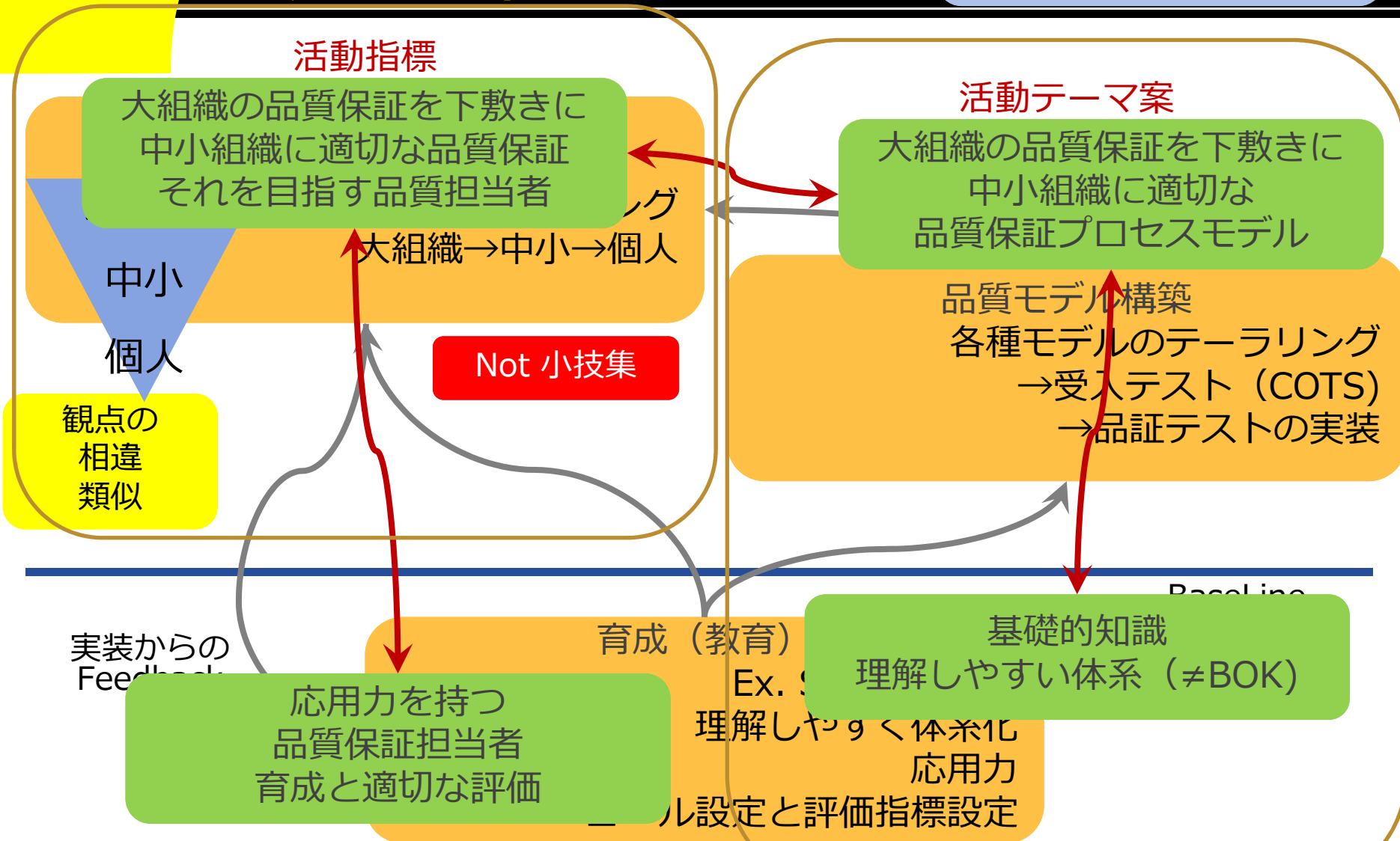
テーマ分類

[基本的な考え方] ソフトウェアの品質保証 はプロセスで行う

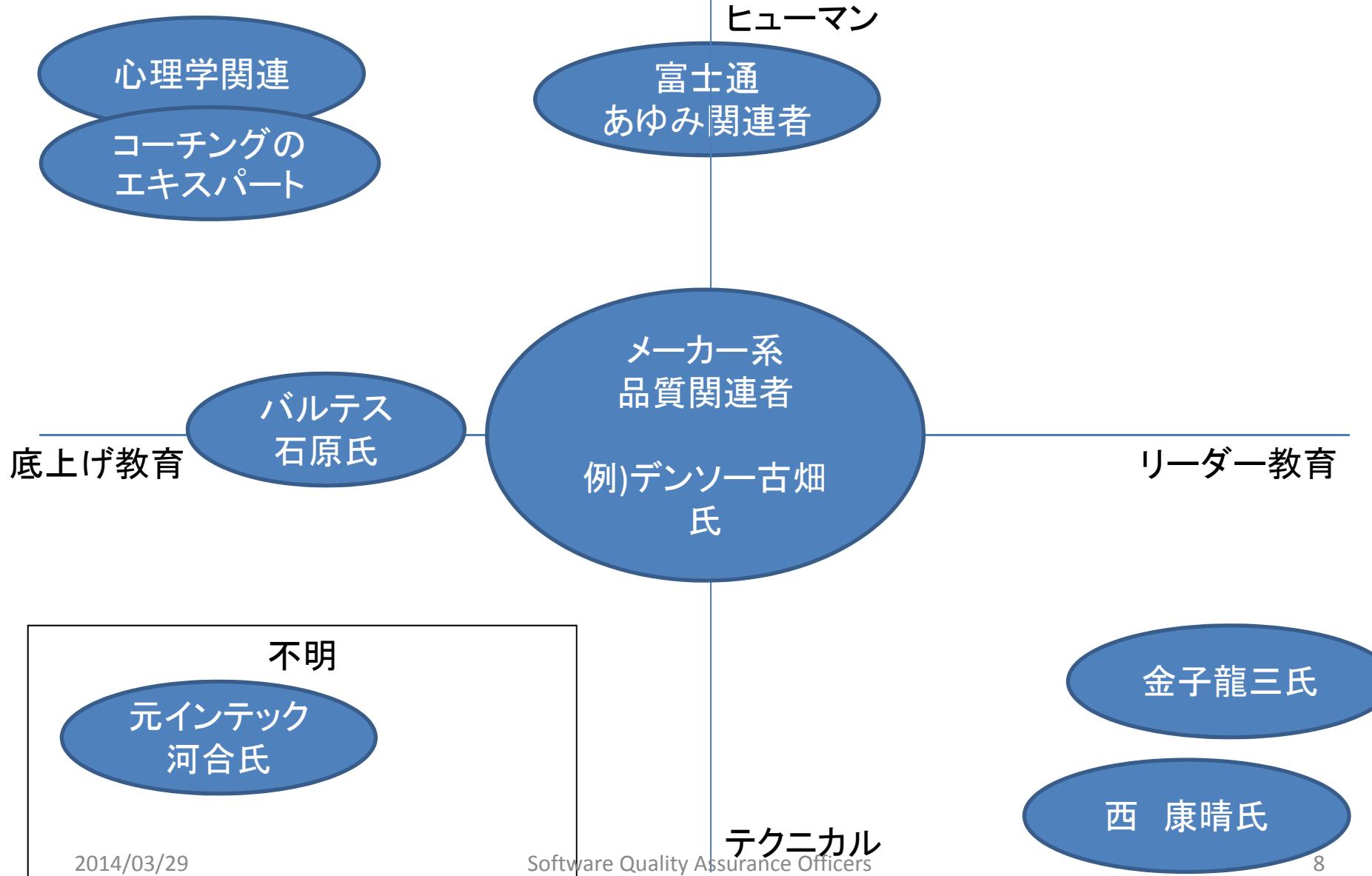


テーマ化

[基本的な考え方]
ソフトウェアの品質保証
はプロセスで行う



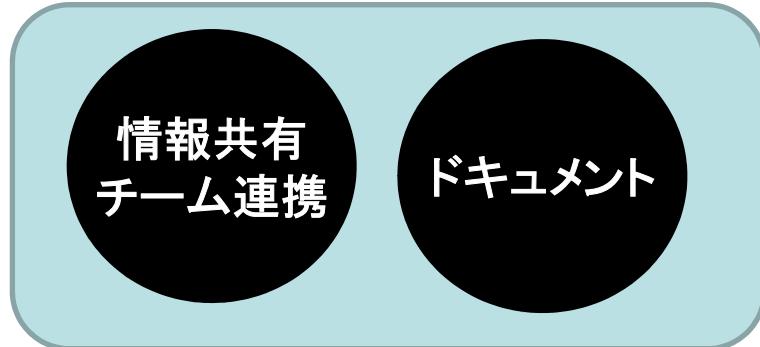
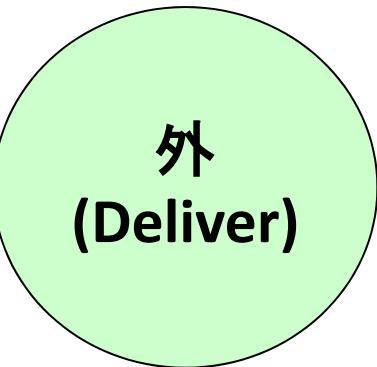
講演者候補検討



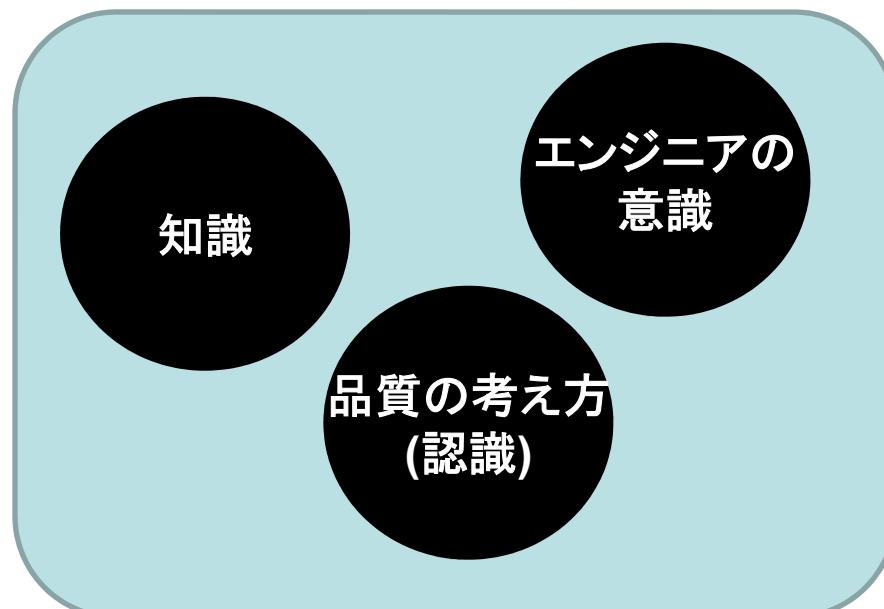
品質保証責任者の会(2014/1/22)まとめ

<< 前回のホワイトボード >>

外向き
(チーム)



教育・育成(何を、どのように)



Dev・Test 連携

One for All.
All for One.

Software Quality Assurance
Officers

内向き(個人)



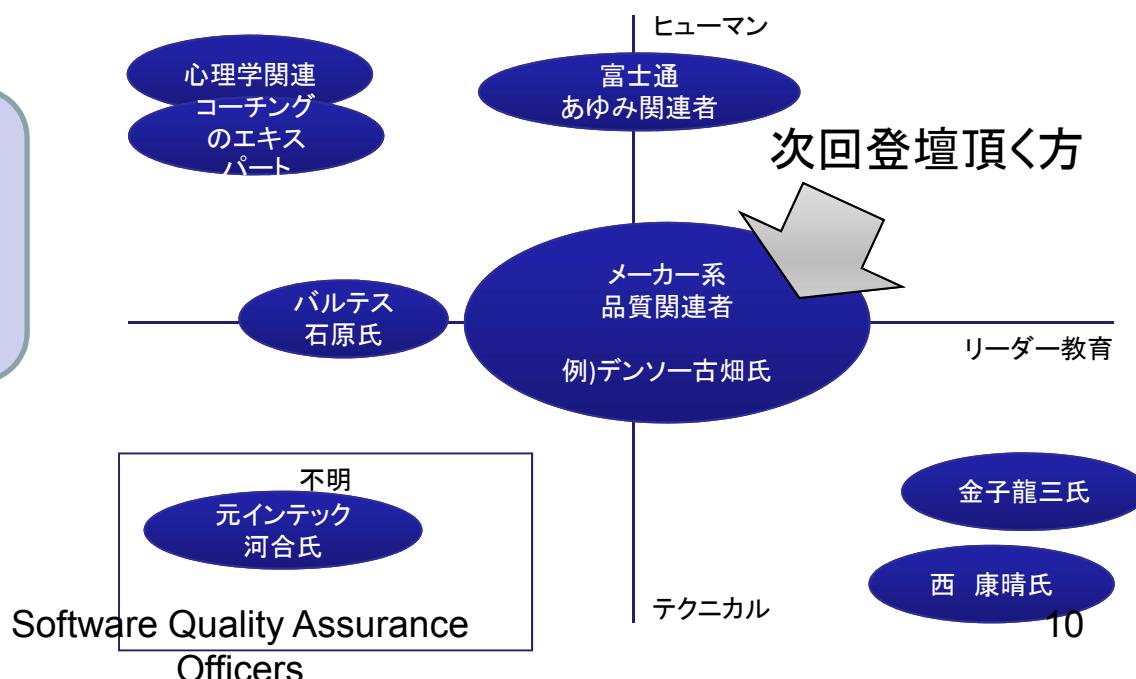
次第に良くなる⁹

品質保証責任者の会(2014/1/22)まとめ

- 再度どのような「教育」を望むのか？を自社の状況から考える
 - 提供された機能の実現“だけ”を実装し品質を高めるという意識が欠けている
 - 自社で受け入れる品質に対する意識は高いが知識が欠けている



幅広くバランスのとれた人材教育が必要では？



品質保証責任者の会(2014/1/22)まとめ

外向き
(チーム)

情報共有
チーム連携

ドキュメント

教育・育成(何を、
どのように)

外
(Deliver)

このバランスについて
考えていきたい

知識

エンジニアの
意識

品質とは
(認識)

Dev・Test 連携

One for All.
All for One.

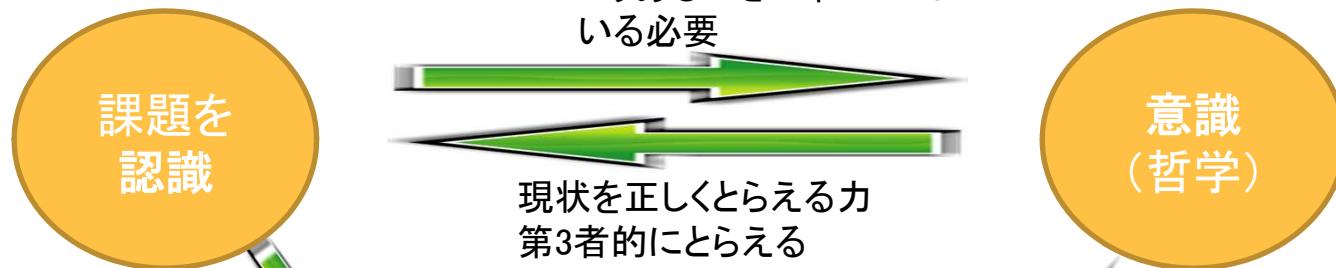
次第に良くなる

2014/2/28 検討項目整理

課題と思えるか？

課題解決をする為には？

こうあるべきがわかって
いる必要



今だからこうあ
るべき…

課題を分析す
る方法

哲学を深める

モデルリング
統計的手法
ソフトウェアメトリクス
最新技術
失敗事例

知識

次回、現状問題で出し合った
内容と比較

古畠氏より
・考える力を鍛える
・説明できる力付ける
→ライトニングトークが有効かも?
周りから質問してあげる
課題を解決できる場を提供する
自分の問題解決は…自分に引き寄せる

開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

第二回は

「じゃあ、身の丈って」何なんだ？

「身の丈」は誰の目線？→開発側

「身の丈」をさまざまな角度から(**もう少し整理が必要！**)

誰の目線？→開発側

るべき姿？or現状

顧客に「身の丈」を説明できるか？

他に置き換える言葉は無いのか？

「身の丈」は誰の目線？→開発側

→「**要求**」と定義できるのでは？

「品質」とは「顧客の要求を満たす度合い」とも言える
「当たり前品質」と「魅力的品質」と「身の丈」との関係は？

開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

第三回は 活動の方向性の確認と、論議の深堀
再び「身の丈って」何なんだ？

「身の丈」：適切なレベル

→現状レベルから「顧客の要求を満たす」レベルへ進めることが必要。

品質

しかし、「身の丈」は、製品、ドメイン、国家…により異なる。

→求められる品質特性も違うはず。(TQCはあまりにも一般的)

だが、現状は品質を担保できるようなプロセスとなっていない。

解決策→

品質プロセスをテークリングする項目、要素の指標を検討する。

課題

求められる品質特性を抑えるにはどのプロセスが必要か？
外してはいけない特性は何？

開発プロセス(身の丈にあった開発プロセスの探求)

第五回は 論議の深堀 「身の丈」を知るには？

方法: →各種メトリクスの記録と比較 ← 単なるアセスメントでよいか?

課題: 実力以上の要求 ← 基本は“挑戦 (リーダの意識)”

→ “挑戦”できる条件とは何か?

ここで“身の丈”を知らないと“無茶/無謀”な挑戦となる可能性

“身の丈”を表すモノは何か?

そのための標準プロセス ← Not 認証
ベストプラクティスとして参照

特性:[製品・組織]、 レベル:[技術・品質・要求]、...

→ 知つていて当たり前 の指摘! ← それが指摘される理由?

メーカー(由来のソフトハウス)と独立系ソフトハウスの(品質)意識の差
→ 埋まらないギャップ(知識、責任...)

別
の
課
題

チーム作業報告

- 前回例会の報告
 - 品質技術者の育て方(仮)
 - 開発プロセス
- チーム作業
 - 活動の方向性の確認
 - 議論の深堀
 - 希望する講演テーマと講師の選定
 - 次回以降会合日程の希望調査
- 発表
 - 報告10分、質疑応答 5分

次回以降の予定

詳細は追ってお知らせします

- 第 7回定例会 2014年4月25日(金)
- 第 8回定例会 2014年5月
- 第 9回定例会 2014年6月
- 第10回定例会 2014年7月



原則として平日（水・金）の19：00～
数か月ごとに土曜午後